



1	はじめに	1
2	理事会・幹事会報告	1
3	委員会報告	1
3.1	普及委員会	2
3.2	交流委員会	3
3.3	次期役員募集・推薦委員会	3
4	札幌セミナー開催報告	4
5	行事予定	5
5.1	第12回水源地生態研究セミナー	5
5.2	第13回埼玉大会	6
5.3	矢作川フィールドシンポジウム	7
5.4	近畿現地ワークショップ in 加古	7
5.5	第8回北陸現地WS in 福井	7
6	LEE (国際英文誌) 購読の案内	8
7	編集後記: 事務局から	8

1 はじめに

9月25～28日に開催する第13回埼玉大会(さいたま市浦和区: 埼玉会館)のプログラムも決まり、準備も大詰めに入って参りました。また、第13回総会は、9月26日(土)12:30～13:30に実施することとなり、総会資料を本ニュースレターと一緒に同封しております。総会の成立には正会員の1/5の出席が必要であるため、欠席される正会員は、別途送付する電子メール・ハガキ等の委任状に必要な事項を記載の上、9月14日(月)までに事務局までご返信くださいますようお願い致します。

2 理事会・幹事会の報告

ニュースレターNo.44発行後、第39回幹事会・第48回理事会が電子メールを利用した会議形式で実施されました。理事会での報告及び検討内容を主体として報告します。

役員会開催状況
第39回幹事会 (メール会議) 平成21年8月17日(月)～8月21日(金)
第48回理事会 (メール会議) 平成21年8月21日(金)～8月27日(木)

第48回理事会 (メール会議)

1 報告事項

(1) 総会・役員会等の日程について

第13回埼玉大会のプログラムと総会・役員会等の日程について報告した。

(2) 海外派遣者の決定について (交流委員会)

海外の学会等への派遣について、2名の募集があり、交流委員会において学会での口頭発表を予定する1名への派遣助成(15万円)を決定し、理事会に報告した。

(3) 平成20年度決算について

平成20年度決算(確定値)について、報告した。

(4) 平成21年度事業実施状況・収支見込みについて

平成21年度の地域ワークショップ等の事業予定・報告、第12回総会において承認された平成21年度予算案について、現状での収支見込み・差異について報告した。

2 審議事項

(1) 次期役員応募・推薦状況報告、幹事長・幹事候補の推薦等について

推薦委員会により、次期会長・副会長・理事・監事の各候補への申込を踏まえて、次期役員候補を決定したことについて報告した。

第47回理事会(5月11日開催)にて、次期会長候補により幹事長・幹事候補を選出し理事会に諮ることとなっていた「幹事長・幹事候補(案)」について承認を受け、総会に推薦することとなった。

また、現状の推薦・総会での選出方法にあわせて「次期役員募集・推薦委員会規程」が修正され、承認された。

(2) 平成22年度予算(案)について

前回理事会に諮った平成22年度予算(案)について、平成20年度決算(支出実績)、および平成21年度事業実施状況を元に、平成22年度予算(案)を修正・提示し、承認された。

支出が、平成21年度予算より約340万円増となった点について、名古屋で開催されるCOP10等に向けた単年度の支出増が大きいいため、河川整備基金への申請を行うなど、収入増に向けて取り組んでいくよう意見が出された。

(3) 名誉会員の推薦について

学会規約に基づき、理事会より廣瀬前会長を名誉会員に推薦し、総会の議案として諮ることについて了承された。

(4) 総会での審議事項について

第13回総会で審議する議案をとりまとめ、これらを総会に諮ることについて承認された。

(5) 普及委員会の予算確保について

普及委員会より、昨年度のELR福岡にて普及委員会で開催を決めた「全国フィールドワークショップ(仮称)」に参加する普及委員旅費の確保と、地域ワークショップでの講演招聘者の交通費等、やむを得ず赤字になる分への委員会からの補填について理事会に諮られた。理事の

過半数を超える承認があったが、予算化・補填について多数の意見が出されたため、次回理事会にて再度検討することとなった。

3 委員会報告

3.1 普及委員会

- ・日時:平成21年6月4日(木)13:00~16:15
- ・場所:砂防会館 3F会議室
- ・出席者:竹門委員長、関根幹事、岩瀬委員、久保市委員、矢部委員、佐渡委員、澤委員、中村委員、厨子委員、澤委員、川越委員、原田委員、高嶋委員

<議事内容>

(1) 平成21年度活動予定

地域	予定・企画等
札幌	8月に多自然川づくりが目指す河岸・河床を実施
仙台	本年度は具体計画無し
東京	落合川現地見学の他、勉強会の継続
金沢	H23年金沢大会が決まる。北陸WSを継続
富山	地域の常設幹事会を設立。年1回程度の勉強会を実施
福井	10/30-31にCPD認定プログラムである九頭竜川のWSを開催
新潟	地域連携を進め、H23年にWS開催予定
名古屋	11/20-21に矢作川フィールドシンポジウムを企画。H22はCOP10絡みのシンポジウム等を開催予定
大阪	11/28に加古川WSを開催。H22は和歌山で実施予定
広島	H21は太田川・江田島湾をテーマにジョイントシンポジウム+現地見学会を行う
松山	10月に重信川の自然再生見学会を企画
福岡	11月頃に地区の事例発表会を企画

(2) 審議事項

1) 全国フィールドワークショップ(仮称)

全国フィールドワークショップは、年に1回、普及委員(地域の連絡責任者)が集まる全国レベルのワークショップとの位置付けである。企画は普及委員会で行うが、運営は当該年の担当地域が行う。題材は地域のものであるが、テーマは全国共通であり、毎年1回程度を定例化していきたい。これら予算については、理事会に諮るものとする。

2) 地域WSの運営について

地域の活動は、独立採算を目指していくものとするが、招聘する講師の交通費等で赤字となりそうな場合には、事前に普及委員会に諮り、必要に応じて委員会予算から補填していきたい点について、理事会に諮るものとする。

3) COP10 対応について

学会の COP10 対応については、名古屋の中村委員が辻本副会長と調整していく。

4) 応用生態工学会 四国の名称について

四国（仮称）の名称については、川越委員が中心となって検討・調整する（→後日、松山に決定）

5) 各地域の連絡責任者、口座について

各地域の連絡責任者は、普及委員とする。

口座は連絡責任者の名義で法人格として開設し、東京も開設する。

6) 応用生態工学会 ポスターについて

ポスターの作成については、学会事務局が中心となり進め、写真の提供や構成の確認については、これまで通り各委員が協力する。

3.2 海外学会派遣研究者・技術者決定について
交流委員会

(1) 派遣候補会議などの情報収集

担当幹事を含め交流委員から応用生態工学に関連のある派遣先として相応しい会議・学会などの情報を集め、ニュースレター、ホームページと ece-ml により応募を行ないました。

(2) 平成 21 年度海外学会等派遣者の審査

(メール会議：7/1-7/17)

募集に対して応募された 2 名のうち、学会への発表を行う派遣者として、1 名（15 万円）への助成を決定しました。

派遣者	参加学会
宮田 秀介	2nd International Conference on Forests and Water in a Changing Environment 第 2 回『変動する環境下における森林と水』に関する国際会議

[委員意見総括]

学会等に参加するだけでなく、発表を行なう派遣が好ましいと考える。発表を行なう機会がない場合には、派遣先での発表に代わる能動的な活動計画が示されると良い。

3.3 次期役員候補の申込・推薦状況について

次期役員募集・推薦委員会

(1) 申込・推薦状況

学会規約（第 10,11,13 条）および「次期役員募集・推薦委員会規程」に基づき、次期役員候補の届出を 6 月 1～30 日の間、募集したところ、会長候補（1 名）、副会長候補（3 名）、理事候補（1 名）の申込がありました。申込を踏まえて次期役員募集・推薦委員会を 7 月 14 日に開催し、被届出人を含む役員 20 名を推薦し、ました（別紙の総会資料参照）。

役員候補募集・推薦過程、スケジュール

月日	経過
5 月 7 日	第 1 回次期役員募集・推薦委員会開催 次期役員候補募集方法、規程の確認
5 月 28 日	発行NL44 号により次期役員候補者の届出を募集
6 月 1 日 ～30 日	次期役員候補申込の届出期間内に、他薦により 5 名の候補申込を受理 会長候補（1 名）：1 名申込 副会長候補（3 名以内）：3 名申込 理事候補（15 名以内）：1 名申込 監事候補（2 名）：申込無し
7 月 14 日	第 2 回次期役員募集・推薦委員会開催 次期役員申込者の候補への承認、次期役員候補の推薦決定
8 月 28 日	NL45 号等により、会員への次期役員候補の周知。 総会欠席者への事前投票の案内
9 月 14 日	総会欠席者による事前投票返送締切

(2) 規程の改正

現状の推薦・総会での選出方法にあわせて「次期役員募集・推薦委員会規程」が改正されました。

次期役員募集・推薦委員会 規程

[1] 目的

本委員会は、学会規約に基づく次期役員の選出を円滑に行うために設置し、立候補者の募集・受付、候補者の推薦、周知など、次期役員候補の推薦までの手続きを調整する。

[2] 設置と構成

本委員会は、役員改選年ごとに設置し、当該年の総会終了後に解散する。委員長(1名)及び委員(2名以上)は、理事会が指名する会員で構成する。

[3] 立候補者の募集・受付

本委員会が立候補を募る役員は、会長、副会長、理事、監事とする。なお、立候補者の募集・受付の基本的な要領は以下のとおりとし、募集案内や日程等を会員に周知するものとする。

- ・役員候補者は正会員とする。ただし、学会規約第10条及び第13条により、会長、副会長及び監事はこの限りではない。
- ・候補者は、自薦・他薦を問わない。
- ・会長及び副会長については、それぞれの候補者名に正会員5名以上の推薦人の名簿を添えて学会事務局に届け出る。
- ・候補者の募集・受付期間は、役員改選年の総会の4ヶ月前～3ヶ月前を基本とする。

[4] 候補者の推薦

本委員会は、候補者の募集期間中に候補者が定員に満たない場合などは、候補者の募集・受付期間経過後に候補者の推薦を行う。

[5] 周知・投票に関する調整

本委員会は、学会事務局が実施する以下の活動の調整を行う。

- ・学会事務局は、立候補者の募集・受付の要領や推薦人名簿の様式等の必要な書類の周知を、学会ニュースレター及び学会のホームページへの掲載等によって行う。
- ・学会事務局は、立候補者もしくは推薦された次期役員候補者を、総会までに学会ニュースレター及び学会のホームページへの掲載等によって会員に周知する。
- ・学会事務局は、総会において次期役員選出のための投票結果をとりまとめる。なお、やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員については、あらかじめ通知された次期役員候補者について投票し、または他の正会員を代理人として評決を委任することができる。

[6] 総会における報告

本委員会は、学会規約第10条、第11条、第13条、及び第14条に基づく総会での役員の選出が円滑に行われるよう、総会において以下に示す報告等を行う。

- ・次期役員候補者の募集・推薦等の経過の報告

[7] 付則

本規程は、平成21年5月11日より施行する。
本規程は、平成21年8月27日改正し、施行する。

4 札幌セミナー開催報告

「本来の川をとりもどすために…その5

“多自然川づくり”がめざす河岸・河床

応用生態工学会 札幌

岩瀬晴夫 ((株)北海道技術コンサルタント)

応用生態工学会札幌は、(独法寒地土木研究所共催で2008年8月17日(月)にセミナー、翌日“てくてくジオツアー”を実施しました。

5人の講師陣は生物環境と物理環境の境界領域を研究されている人たちです。参加費2000円を払っていただいたセミナー参加者158名、無料のジオツアー参加者は34名でした。



札幌セミナーの様子

吉井厚志氏(寒地土研)の司会進行で定刻10:00からセミナーが始まりました。

トップは本会代表の中村太士講師(北大)による「多自然川づくりがめざす河岸・河床」。他の講師が提供するであろう話題とかぶらない配慮をした講演です。自然はつねに変化し続けている動態であることを具体例で示されました。2番目は岐阜から来ていただいた萱場祐一講師(自然共生研究センター)。テーマは「多自然川づくりにおける河岸・

水際の捉え方」です。「多自然川づくりポイントブック」(財)リバーフロント整備センター発行)や「中小河川に関する河道計画の技術基準について」の解説,そして川づくりの今後の課題.実務者がいま知りたい話題に満ちた講演でした.

昼食をはさみ 13:30 から午後の部が開始されました.

3 番目は河口洋一講師(徳島大)による「生き物からみた水際の構造と機能」.徳島で最近研究しはじめたアカテカニの生態と河岸構造や,水際構造と水際カバー等の有無による魚類の生息数との関係をととても分かりやすく説明されました.

4 番目は根岸淳二郎講師(北大)による「河川改修とハビタット…ハビタットから見た河川改修の際の留意点」.生物の生息空間は物理的環境(流速,底質など)・化学的環境(PH,DIN など)・生物的環境(えさ,捕食者など)の交点に存在すること.その生息地では洪水時避難場所が重要性であり,河道内の“たまり”などをハビタットにしているイガイ(黒い二枚貝)を例に説明されました.イシガイは魚類との強い共生関係とフレッシュな底質などが必要で,河川健全性の指標になる種である話題が提供されました.

最後は池田宏講師(元筑波大).「河岸・河床のでき方」を,河川地形学・地理学の視点から,岩川(いわかわ)・石川(いしかわ)・土川(つちかわ)のでき方を講演されました.休憩をはさみ,フロアーと講師陣との1時間弱の質疑応答があり,16:40に終了しました.

翌日の“てくてくジオツアー”は,豊平川扇状地の扇頂部に9:10現地集合.河岸段丘,柱状節理の河岸や岩盤・大石河床の説明を池田宏講師から聞き,藻南公園で昼食.さらに下って起点から5km下流の豊平川さけ科学館に到着.科学館の実習室で個人紹介と質疑応答を行い16:30過ぎに科学館で解散しました.

協力していただいた皆様に感謝しつつ,無事終了できたセミナー報告を終わります.札幌セミナー

終了間もなく,来年の総会(全国大会)にむけ,始動開始です.



豊平川てくてくジオツアーの様子

5 行事予定

5.1 第12回水源地生態研究セミナー(後援行事)

(財)ダム水源地環境整備センターでは,今後のダム事業と周辺整備の保全・管理との関わりを考える一環として,「水源地生態研究セミナー」を毎年開催しています.

「水源地生態研究セミナー」は,ダムが生み出す生態系を科学的に把握し,水源地域の保全のあり方を探求することを目的として活動しています.このセミナーでは,ダムをめぐる生態学的研究のこれからと,今後水源地において取り組む研究について,多くの人と議論したいと考えています.皆様の御参加をお待ちしております.

主催:財団法人ダム水源地環境整備センター
(<http://www.wec.or.jp/center/>)

日時:平成21年9月28日(月)13:30~17:00

場所:星陵会館 2階ホール

(東京都千代田区永田町 2-16-2)

(地図は,下記WECホームページのセミナー開催案内参照)

参加費用：無料

*土木学会認定CPDプログラム(CPD予定単位3.2)

プログラム

テーマ「ダム湖の生物群集と物質循環
～健全な生態系管理を目指して～」

開会の挨拶

渡辺 和足(財団法人 ダム水源地環境整備センター
理事長)

講演

占部城太郎(東北大学 大学院生命科学研究科 教授)
「ダム湖における生物群集の特色と
生態系機能」

岩田智也(山梨大学 大学院医学工学総合研究部 准教授)
「ダム湖における温室効果気体の
生成・循環プロセス」

西野麻知子(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
総合解析部門長)
「生態系のバランスから見た琵琶湖
—水位変動と温暖化を中心に—」

パネルディスカッション

コーディネーター

江崎保男(兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授)

パネリスト

占部城太郎(東北大学 大学院生命科学研究科 教授)
岩田智也(山梨大学 大学院医学工学総合研究部 准教授)
西野麻知子(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
総合解析部門長)
吉村千洋(東京工業大学 大学院理工学研究科 准教授)

懇親会 (17:15～19:15)

星陵会館 4階 レストラン (シーボニア)

懇親会参加費 ¥3,000

申込方法

参加ご希望の方は、FAX又はE-mailにて、
氏名、ふりがな、連絡先(所属、住所、Tel、
Fax、E-mail)等の必要事項を記載の上、
s-seminar@wec.or.jp にお送りください。

申込書をメールに添付して頂いても結構です。

申込書は、下記WECホームページ内、セミナー開催案内にございます。

第12回ダム水源地生態研究セミナー開催のご案内

<http://www.wec.or.jp/center/seitaiken/H21/index.thm>

*申し込み期限：平成21年9月7日(月)

お問い合わせ

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-14-2 麹町NKビル
(財)ダム水源地環境整備センター 研究第3部
TEL 03-3263-9945 FAX 03-3263-9922
E-mail s-seminar@wec.or.jp

5.2 第13回埼玉大会

応用生態工学会では、来る9月25日(金)
から28日(月)の4日間、第13回埼玉大会を
開催します。

会員以外の皆様のご参加もお待ちしておりま
す。詳しくは、同封の大会プログラムをご参照
ください。

(1) 全体プログラム

- 9月25日(金) -1日目-
 - 12:00 開場, 受付開始
 - 13:00～17:30 第13回研究発表会「ポスター発表」
 - 17:30～20:30 自由集会 (COP10WG)
 - 17:30～21:30 自由集会 (若手の会)
- 9月26日(土) -2日目-
 - 9:15 開場, 受付開始
 - 9:30～11:30 第13回研究発表会「口頭発表」
 - 9:30～12:00 分科会 (保全としての放流)
 - 12:30～13:30 第13回総会
 - 13:30～17:00 公開シンポジウム・パネルディスカッション
 - 18:00～20:00 懇親会
- 9月27日(日) -3日目-
 - 9:15 開場, 受付開始
 - 9:30～15:30 第13回研究発表会「口頭発表」
 - 9:30～17:30 第13回研究発表会「口頭発表 (英
語) /分科会・国際セッション」
 - 13:30～16:30 自由集会 (野草サミット)
 - 15:40～16:30 エクスカーション説明会
- 9月28日(月) -4日目-
 - 10:00～17:00 エクスカーション(時間変更あり)

(2) 参加料

研究発表会に参加される方(講演者を含む)は、
下記の参加料をお支払い下さい。

1) 研究発表会参加料

正会員・賛助会員：6,000円, 非会員：10,000
円, 学生会員・学生非会員：3,000円,

2) 懇親会参加料

5,000円(当日参加:6,000円), 学生:3,000円

3) エクスカーション参加料：無料

注1) 総会(9月26日(土)12時30分-13時30分)のみ出
席する正会員は無料です。

注2) 公開シンポジウム(9月26日(土)13時30分-17時
00分)の参加料は、非会員も含めて無料です。

- 注3) 研究発表参加料には、当日配布する講演集費用を含みます。ただし、講演集のみ入手希望の方には、3,000円で販売いたします。
- 注4) 合計参加料は、参加者名を明記の上、指定口座(参加申込書に記載)にお振込み下さい。
- 注5) 交通手段及び宿泊関係は、各自でご手配下さい。
- 注6) 研究発表会・公開シンポジウムは会場の定員(200名)で締め切ります、早めに申込下さい。

5.3 矢作川フィールドシンポジウム

持続性を目指す流域圏
～砂河川“矢作川”での取り組み～
応用生態工学会 名古屋
中村達博 ((株) 建設環境研究所)

日時：平成21年11月20日(金)21日(土)

- 1日目：シンポジウム(午後)
会場：豊田市産業文化会館小ホール
- 2日目：矢作川フィールドツアー(終日)
コース：矢作川(矢作ダム等のダム群とその周辺等)

開催趣旨

「持続可能な社会を如何に築いていくのか？」

21世紀を生きる我々に突き付けられたこの大きな命題に取り組む時、水、物質の流れの基本的な単位である流域圏での持続性のあり方を、改めて模索し構築していく必要があると思われます。

本フィールドシンポジウムでは、『持続性を目指す流域圏～砂河川“矢作川”での取り組み～』というテーマのもと、矢作川流域圏での安全・安心な生活と生物生息環境を持続的に守っていくための取り組みを、フィールドツアーを通じて皆さまに体験して頂きたいと考えています。

ここでは、持続性を目指した流域圏の在り方について、“砂”に着目し、上流域のダム堆砂の問題とその対策(例えば、排砂、置土など)、それに関連する中下流域のアーマー化や河口部の砂州・干潟の減少による課題など、それぞれの環境に依存する生物と砂の関係に焦点を当て、シンポジウムを通じて皆さまと議論していきたいと考えております。

なお、本シンポジウムでは、来る2010年に名古屋で開催されるCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)のプレ・イベントとして、

流域圏の持続性を目指すことが生物多様性をどのように支えているのかについて、シンポジウムのパネルディスカッションで議論したいと考えております。

5.4 第2回 近畿現地ワークショップin加古川 現地で応用！生態工学

「河川・流域の管理と連携 ～河川、ため池、播磨灘につながる水圏ネットワーク～」
応用生態工学会 大阪
厨子和典 ((有)水技研)

日時：平成21年12月4日(金)～5日(土)

場所：

ワークショップ・宿泊場所：「西脇市青年自然の家」
現地見学会：加古川およびため池など、
流域での取り組み現場

本ワークショップは、兵庫県を流れる加古川流域を例に、河川中流域を構成する各環境が持っている問題とそこでの管理の実態を見聞きし、一体となった環境としての管理のあり方や、われわれが果たすべき連携について議論する場を目指しています。詳細については後日、HPやチラシ等に発表予定です。

5.5 第8回北陸現地ワークショップ in 福井

(1) ワークショップ

日時：平成21年10月30日(金)
9:50～17:00

会場：福井県立大学交流センター 講堂

(2) 交流会

日時：平成21年10月30日(金)
18:30～20:30

場所：福井駅周辺

(3) 現地見学会

日時：平成21年10月31日(土)
9:00～16:00

コース：足羽川激特事業実施箇所、足羽川稲津魚道、一乗谷朝倉遺跡、本願清水イトヨの里、鳴鹿大堰

出発：福井駅東口(電車利用の方)9:00
福井土木事務所(車利用の方)9:20

6 LEE(国際英文誌)購読の案内

Landscape and Ecological Engineering 誌が応用生態工学会をはじめとする国内外7学会の手で創刊されて5年目を迎えました。

このインターナショナル・ジャーナルを手にするにより、

- 1) これまで欧米に紹介されることの少なかった東アジアを中心とした自然環境の保全と再生, その科学・技術・計画・政策をキーワードとする分野の成果を国際的に発信する。
- 2) 湿潤温帯・熱帯でのミティゲーション・自然再生・緑化技術など, これまでになかった情報交換の拠点となり, 国際的なスタンダードを確立する。
- 3) 関連研究者および学生に対して, 英文論文を発表しやすい場, しかも今後 ISI 登録の可能性をもつ雑誌を提供する。
- 4) 実務家, 企業にとってもアジアでの需要と市場の拡大が進みつつあるなか, 自然再生等の環境保全事業の情報を国際的に共有する。

などの役割が実現しつつあります。

会員各位の奮ってのご参加・ご購入をお願い申し上げます。

(1) 申込方法

① 申込は, 電子メール, または学会ホームページの「会員登録情報変更フォーム」にて, 必要事項を記入し英文誌選択欄の「購読する」にチェックし, 申込ください。また, 申込書に必要事項を御記入の上, FAX, 郵送にて事務局まで御送付頂いても結構です。

② 郵便振替または銀行振込で購読料1年分(1月1日~12月31日:正会員:7,350円 学生会員:4,200円)をご送金ください。

<郵便振替>

番号:00140-7-404275

名義:応用生態工学会

<銀行振込>

銀行・支店名:東京三菱銀行 麹町中央支店
口座種別・番号:普通 1302920
名義: 株式会社イカガイ カイ カヤカゴ

(2) 連絡・お問い合わせ先

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5

麹町ロイヤルビル405号室

応用生態工学会 事務局

Tel:03-5216-8401 Fax:03-5216-8520

e-mail: eces-manager@ecesj.com

Webサイト http://www.ecesj.com

(3) 雑誌概要

年発行回数:年間2回+オンライン

(Vol.1No.1(2005年5月発行)~Vol.5No.2(2009年7月発行) 済)

(4) 投稿規定

以下のURLをご覧ください。

<http://www.springer.com/life+sci/ecology/journal/11355>

7 編集後記・事務局から

<今後の予定>

- 9月25日 第13回埼玉大会 研究発表(ポスター), 自由集会 [学会内各種委員会]
- 9月26日 第13回埼玉大会 研究発表(口頭), 分科会, 公開シンポジウム, 総会, 懇親会 [学会内役員会]
- 9月27日 第13回埼玉大会 研究発表(口頭), 自由集会, エクスカーション説明会
- 9月28日 第13回埼玉大会 エクスカーション(荒川上流・中流・下流の3コース)
- 9月28日 後援事業:第12回水源地生態研究セミナー(財団法人ダム水源地環境整備センター)
- 10月30-31日 応用生態工学会 福井 第8回北陸現地ワークショップ in 福井 「九頭竜川流域の多様性~つながりの保全・再生をめざして~」(福井県・福井県立大学)
- 10月 応用生態工学会 松山 勉強会:重信川の自然再生
- 11月20-21日 応用生態工学会 名古屋 矢作川フィールドシンポジウム 持続性を目指す流域圏 ~砂河川“矢作川”での取り組み~
- 11月28日 応用生態工学会 大阪 第2回近畿WS in 加古川 現地で応用!生態工学 「河川・流域の管理と連携 ~河川, ため池, 播磨灘につながる水圏ネットワーク~」
- 11月 応用生態工学会 福岡 2009-九州の応用生態工学の事例と研究- (予定)

<事務局の近況>

平成20年度末に微減傾向であった会員数も, 皆様の活発な活動に後押しされて昨年並みに増加しました。埼玉大会や各地域の取り組みへのご参加など, 今後ともご支援・ご協力の程よろしく願いいたします。

(事務局:仮谷伏竜)

[平成21年8月6日現在会員数]

名誉会員: 3名

正会員: 1,092名

学生会員: 116名 合計1,211名

賛助会員: 33法人(50口)